

消費動向指数（CTI）について

令和7年4月11日
総務省統計局

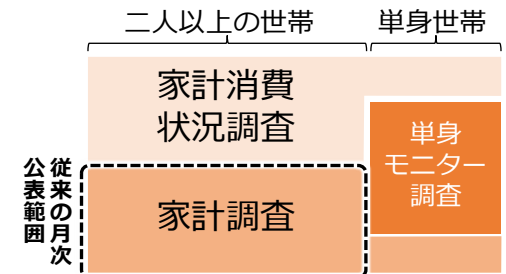
消費動向指数（CTI）の概要

消費動向をマクロ・ミクロの両面から捉える速報性の高い消費指標：消費動向指数（CTI：Consumption Trend Index）を2018年1月分から参考指標として毎月公表

世帯消費動向指数 （CTIミクロ）

世帯の平均消費支出額（10大費目別、世帯類型別など）の月次動向を示す統計指標

- ◆ 家計調査（標本規模：二人以上の世帯 約8千、単身世帯 約7百）の結果を、
 - 家計消費単身モニター調査（標本規模：2千4百）
 - 家計消費状況調査（標本規模：約3万）の結果等と統計的手法によって補正・補強し、標本規模を擬似的に拡大、推計精度を向上



総消費動向指数 （CTIマクロ）

国内経済における個人消費総額（GDPにおける家計最終消費支出）の月次動向を示す統計指標

- ◆ GDP統計（家計最終消費支出）をターゲットとして、最新の動向を推測
- ◆ GDP統計の四半期別公表値では観測できない月次の値を時系列回帰モデルによって推計
- ◆ 2022年12月に、ビッグデータ利活用の成果に関する報告書をウェブサイトに掲載

消費動向指数（CTI）の結果活用例

2025年3月 月例経済報告

各 論

1. 消費・投資等の需要動向

個人消費は、一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

「四半期別GDP速報」（2024年10－12月期2次速報）では、民間最終消費支出の実質値は前期比0.0%増となった。また、「消費動向指数（CTI）」（1月）では、総消費動向指数（CTIマクロ）の実質値は前月比0.1%減となった。

個別の指標について、需要側の統計をみると、「消費動向指数（CTI）」（1月）では、世帯消費動向指数（CTIミクロ、総世帯）の実質値は前月比1.9%減となった。供給側の統計をみると、「商業動態統計」（1月）では、小売業販売額は前月比0.5%増となった。

消費動向の背景をみると、実質総雇用者所得は、緩やかに持ち直している。また、消費者マインドは、おおむね横ばいとなっている。

さらに、足下の状況について、ヒアリング結果等を踏まえると、新車販売台数は、持ち直している。家電販売は、このところ持ち直しの動きがみられる。旅行は、おおむね横ばいとなっている。外食は、緩やかに増加している。

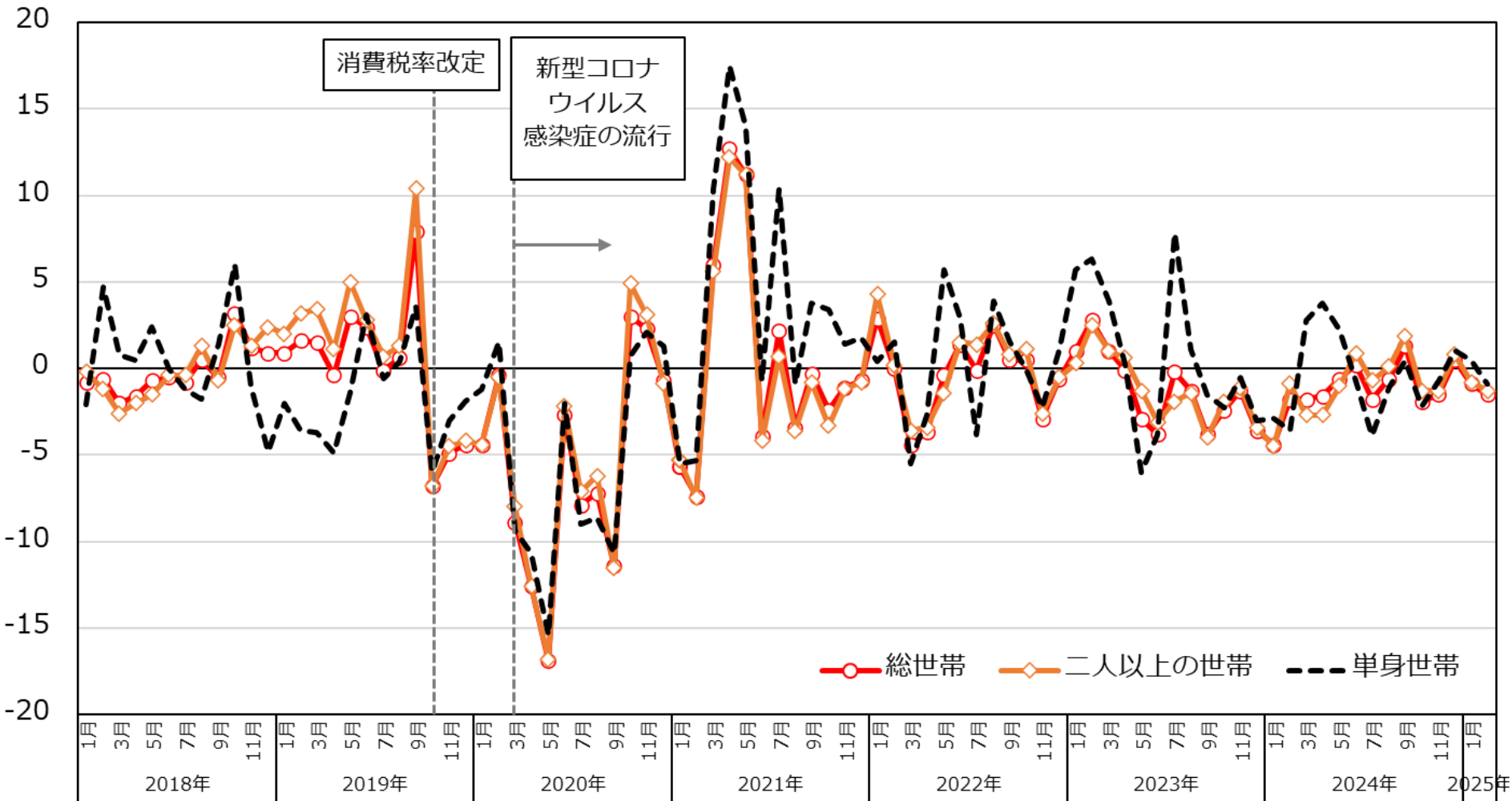
こうしたことを踏まえると、個人消費は、一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、持ち直していくことが期待される。ただし、消費者マインドの動向に留意する必要がある。

世帯消費動向指数（CTIミクロ） 結果概要①

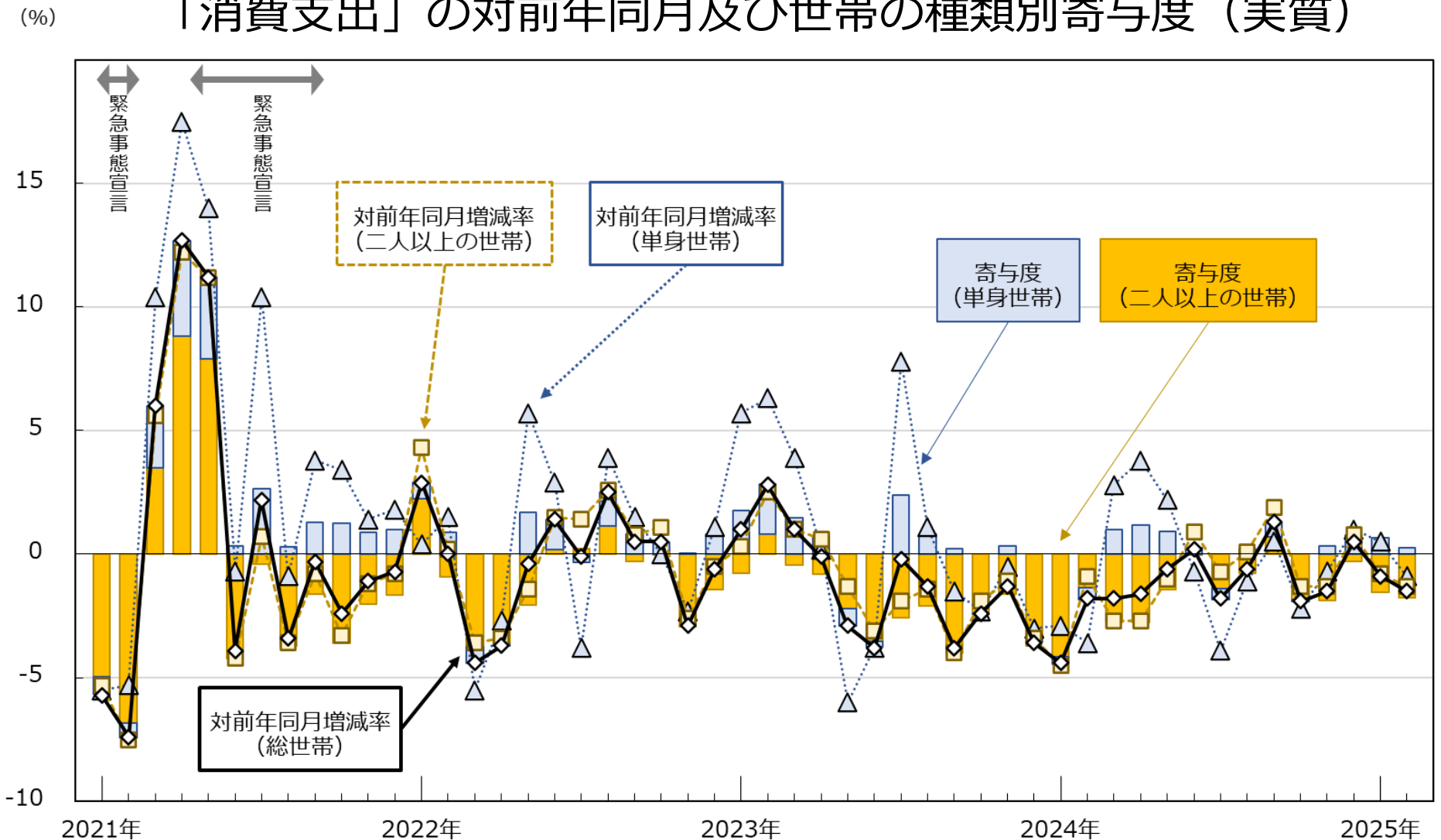
「消費支出」の対前年同月増減率（実質）

(%)



世帯消費動向指数（CTIミクロ） 結果概要②

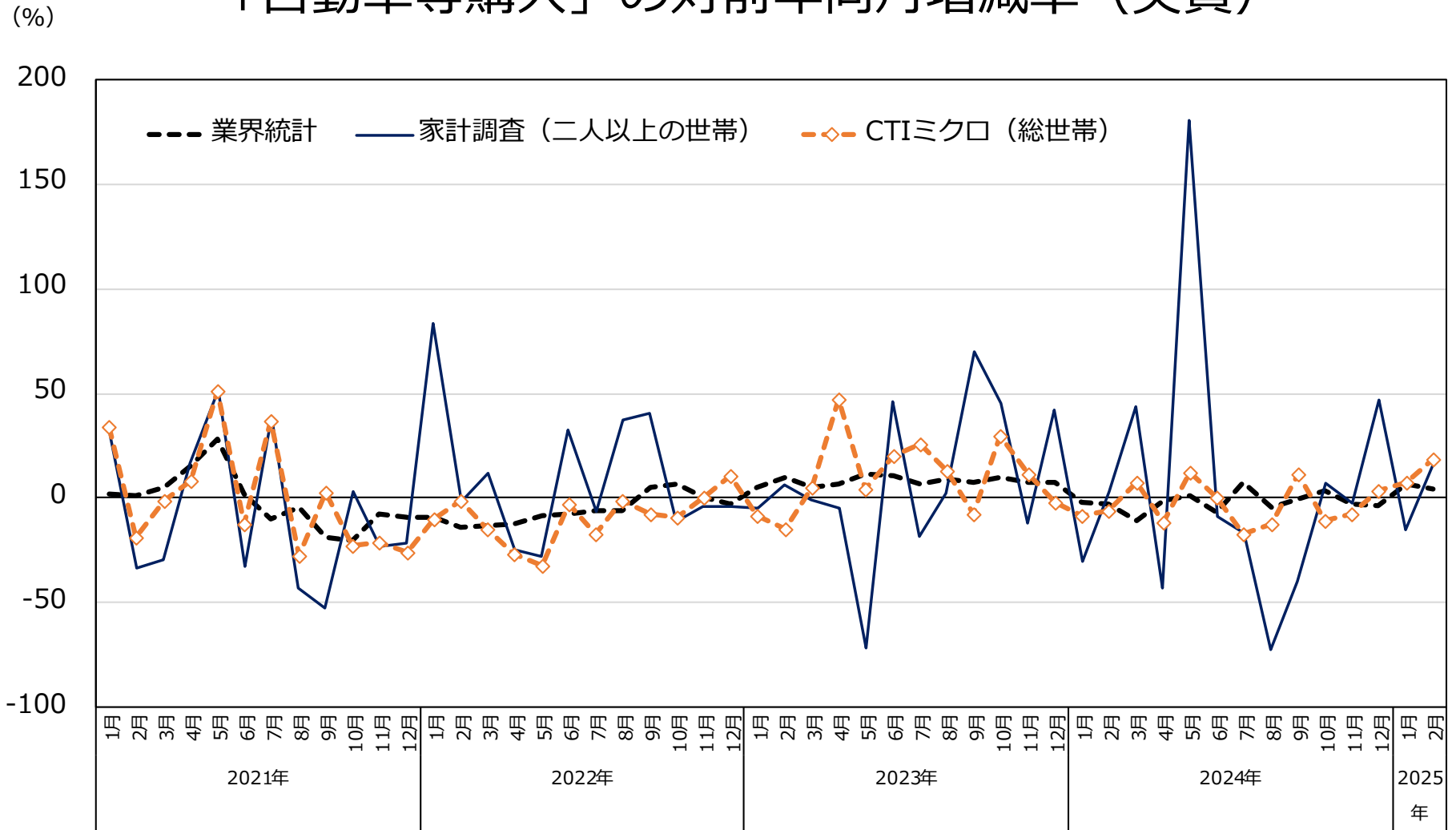
「消費支出」の対前年同月及び世帯の種類別寄与度（実質）



※ 2023年以前の寄与度は、世帯消費動向指数及び労働力調査の結果を基に独自に算出

世帯消費動向指数（CTIミクロ） 結果概要③

「自動車等購入」の対前年同月増減率（実質）

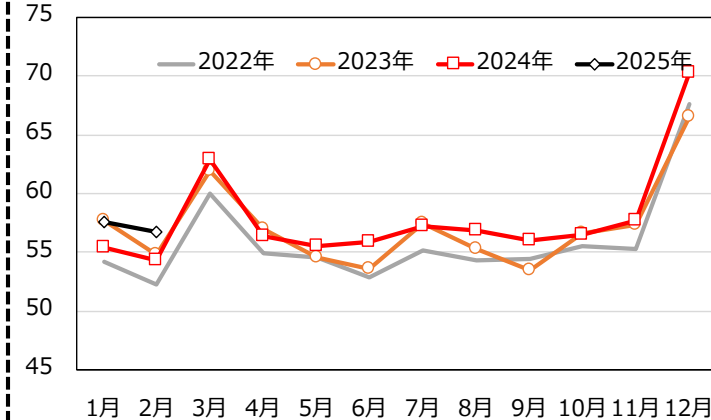


※「業界統計」は日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会の乗用車販売台数（新車及び中古車）を合計したもの

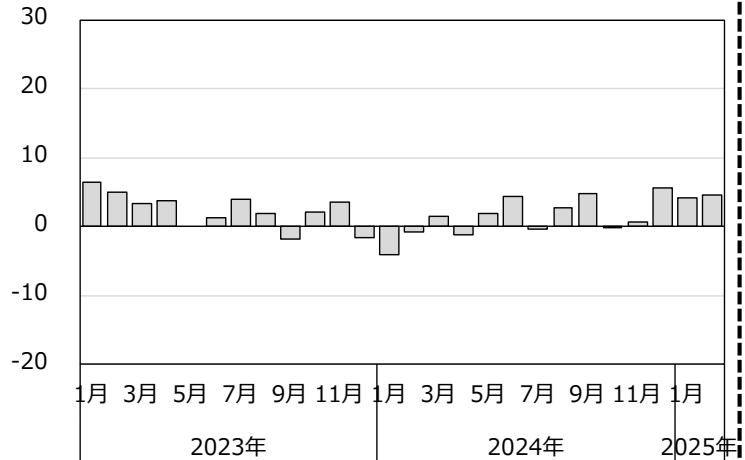
世帯消費動向指数（CTIミクロ） 結果概要④

「財（商品）」の推移（総世帯）

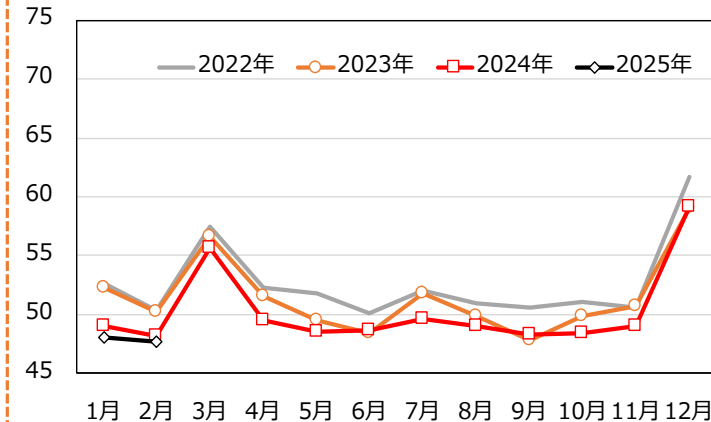
指数値(2020=100) 原数値（名目）



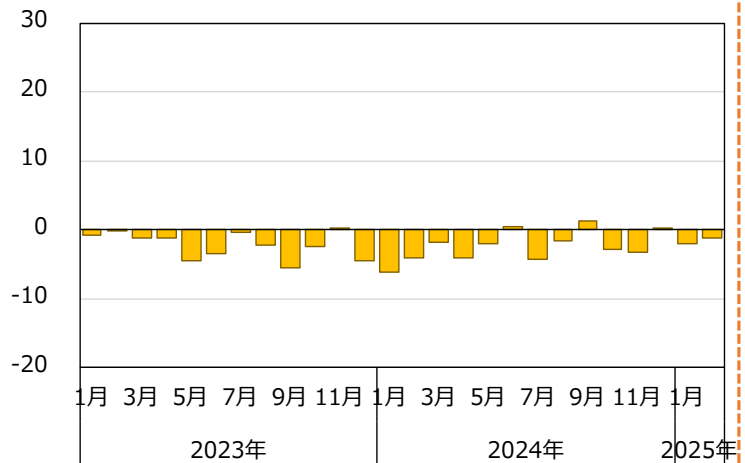
(%) 対前年同月増減率（名目）



指数値(2020=100) 原数値（実質）

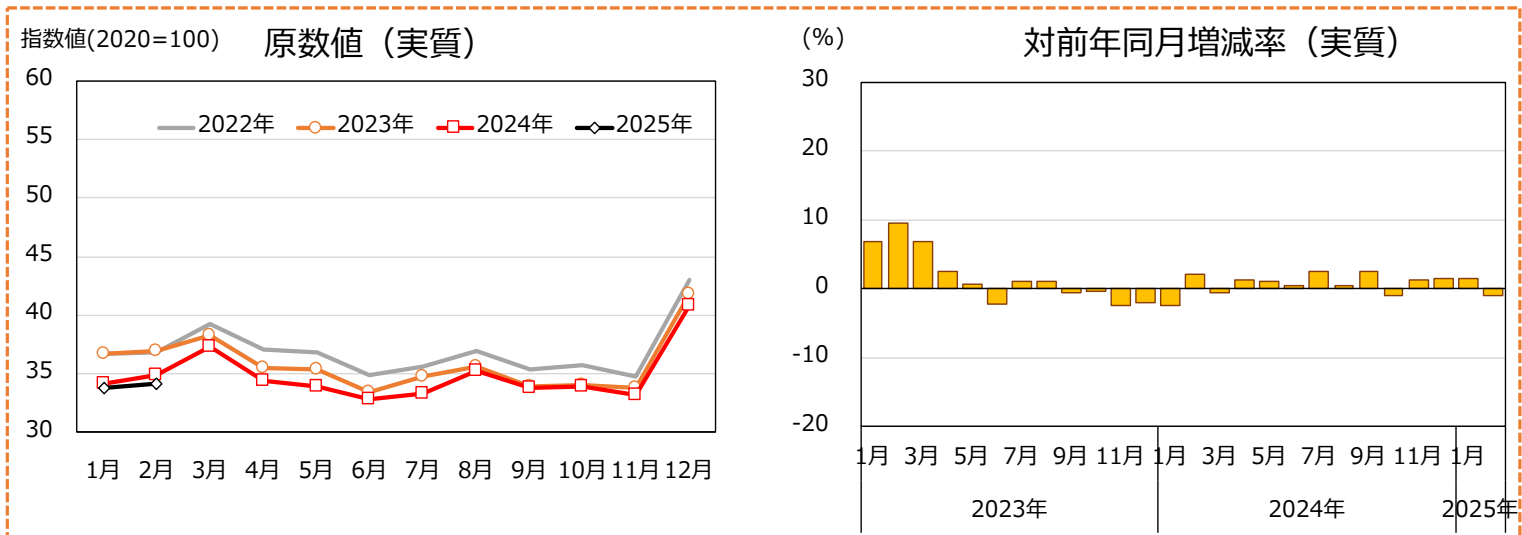
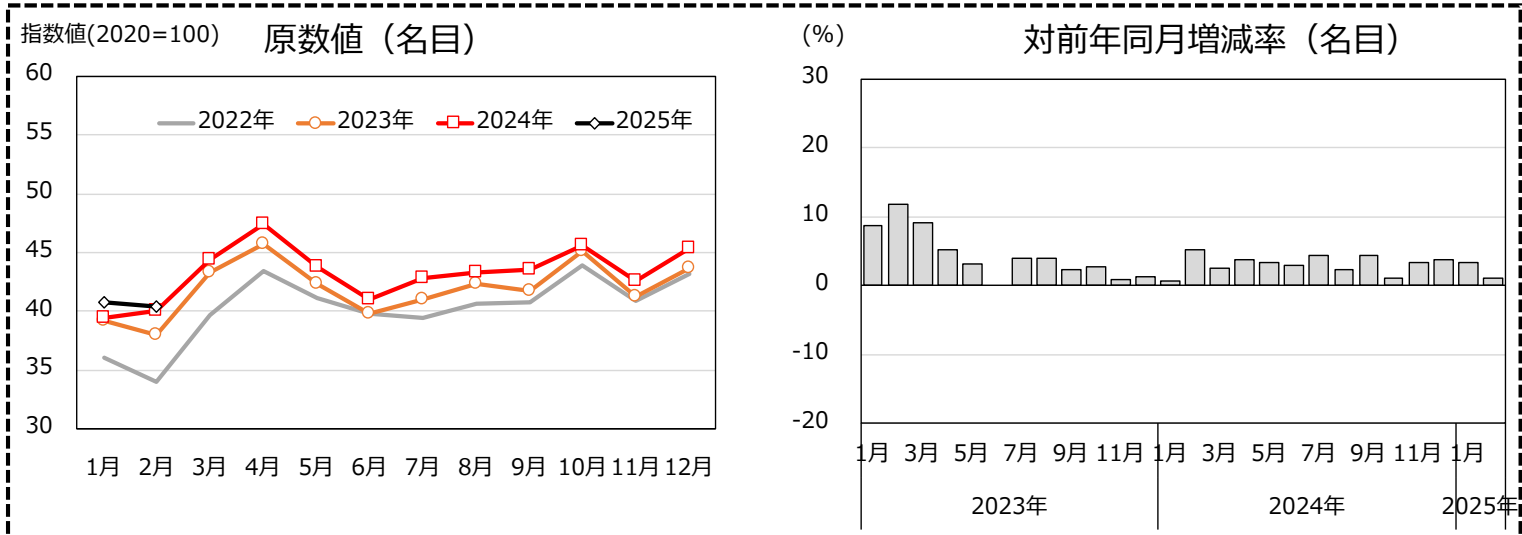


(%) 対前年同月増減率（実質）



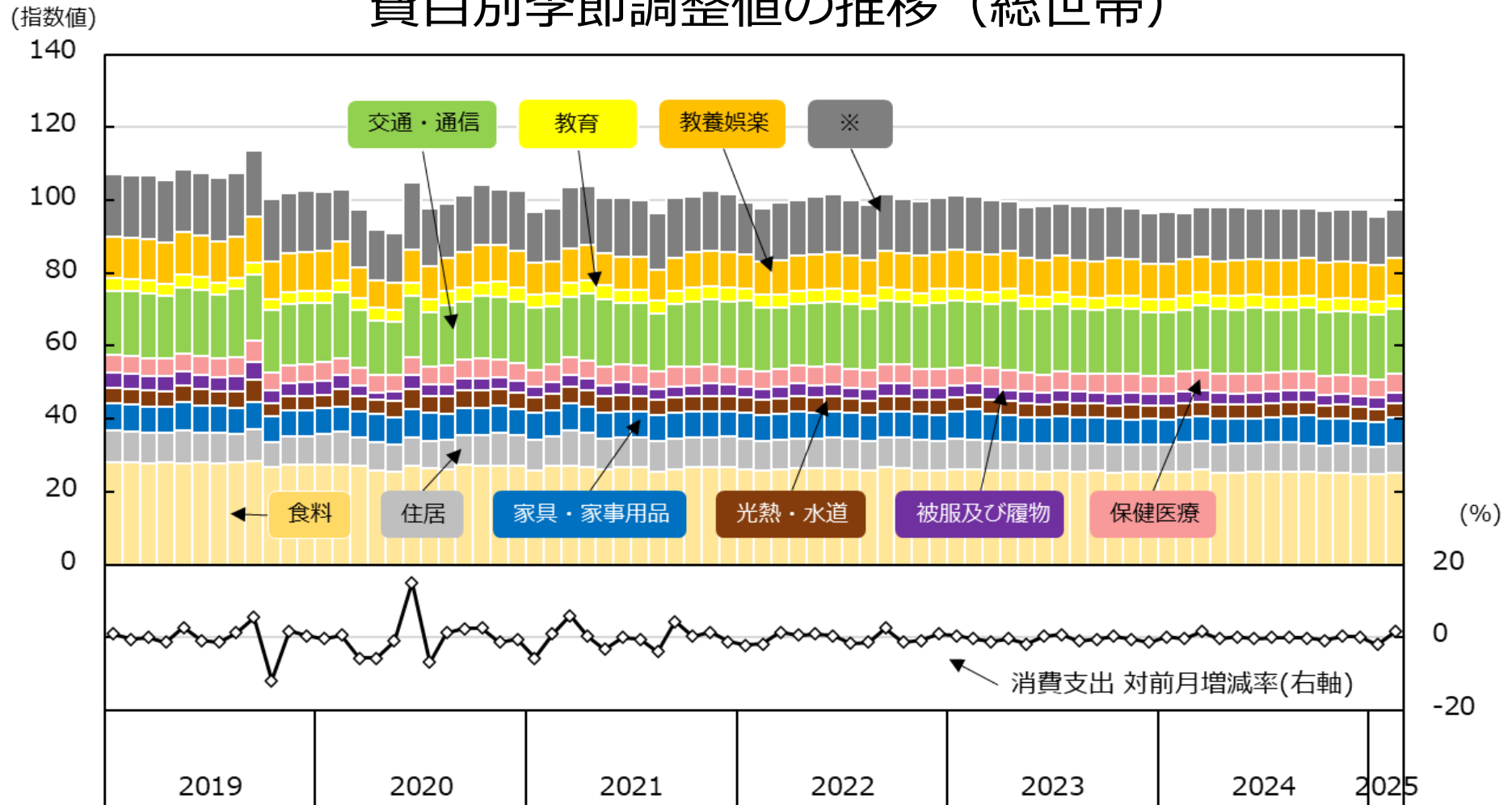
世帯消費動向指数（CTIミクロ） 結果概要⑤

「サービス」の推移（総世帯）



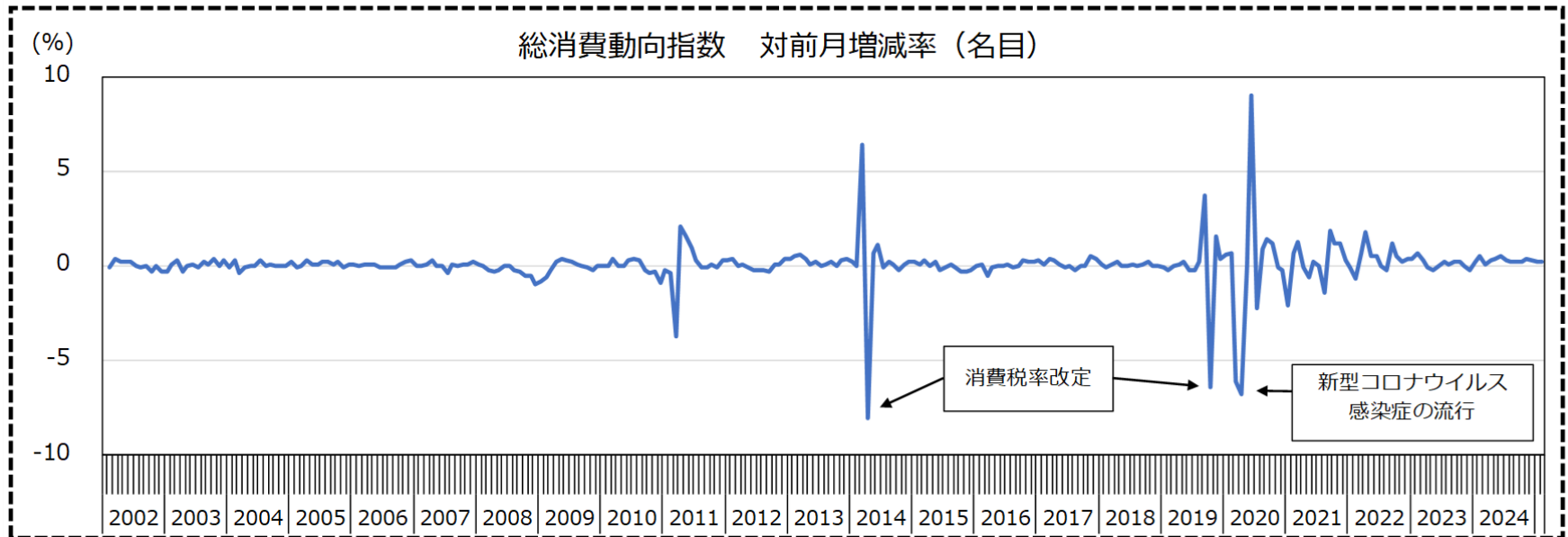
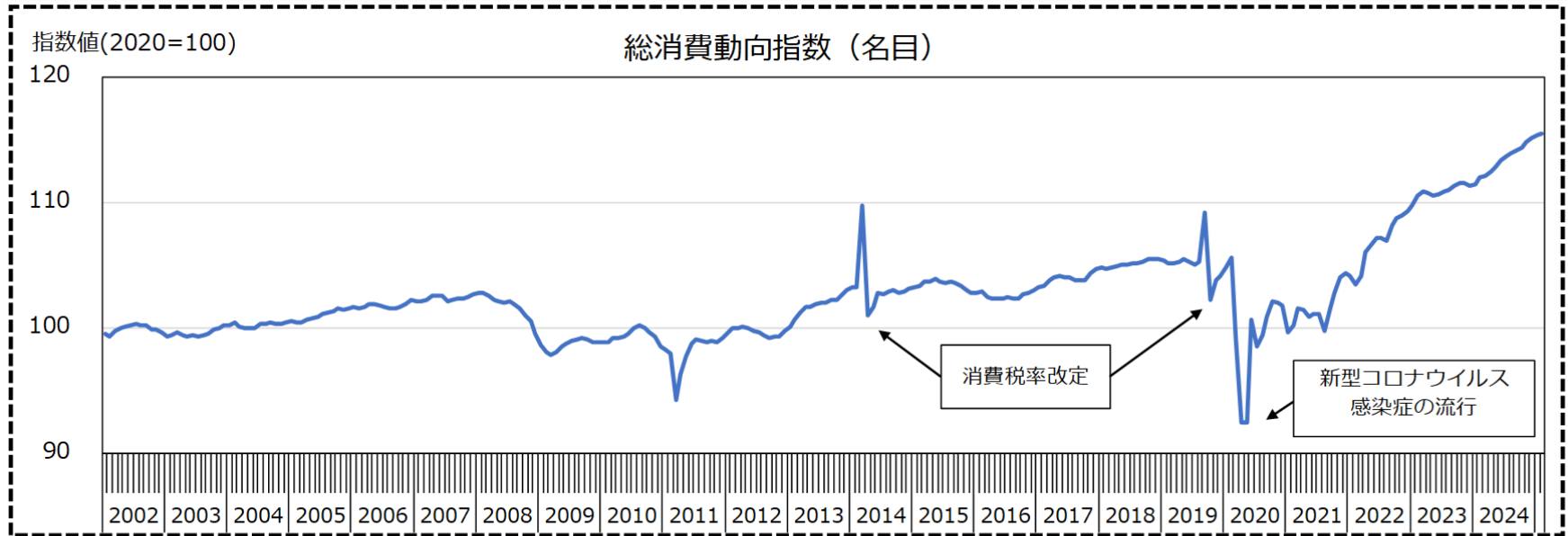
世帯消費動向指数（CTIミクロ） 結果概要⑥

費目別季節調整値の推移（総世帯）



※ 消費支出から「食料」～「教養娯楽」（「教育」の試算値を含む）の合計を減じて算出したものであり、「その他の消費支出」に季節調整を行った場合、必ずしもこの値とは一致しない

総消費動向指数（CTIマクロ） 結果概要①



総消費動向指数（CTIマクロ） 結果概要②

